

甲 第 号

田崎 光 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	彦惣 俊吾
論文審査担当者	委員	教授	室 繁郎
	委員(指導教員)	教授	鶴屋 和彦

主論文

Synergistic effect of proteinuria on dipstick hematuria-related decline in kidney function: The Japan Specific Health Checkups (J-SHC) Study.

特定健診受診者を対象とした血尿に関連した腎機能低下に対する蛋白尿の相乗的な影響についての検証

Hikari Tasaki, Masahiro Eriguchi, Hisako Yoshida, Takayuki Uemura, Fumihiro Fukata, Masatoshi Nishimoto, Takaaki Kosugi, Masaru Matsui, Ken-Ichi Samejima, Kunitoshi Iseki, Koichi Asahi, Kunihiro Yamagata, Tsuneo Konta, Shouichi Fujimoto, Ichiei Narita, Masato Kasahara, Yugo Shibagaki, Toshiki Moriyama, Masahide Kondo, Tsuyoshi Watanabe, Kazuhiko Tsuruya

Clinical and Experimental Nephrology 2023 Dec;27(12):990-1000.

論文審査の要旨

健診における尿潜血の存在と腎予後との関連はこれまで十分に明らかではなかった。申請者は、2008年から2014年の間に本邦で特定健診を受診した552,591例を対象に、蛋白尿と尿潜血の腎機能低下に対する影響について検討した。蛋白尿を伴う尿潜血は腎機能低下に影響するが、蛋白尿を伴わない“血尿単独群”の腎機能低下への影響は統計学的には有意ではあったが極めて小さかったことを示し、蛋白尿が血尿に関連した腎機能低下に対して相乗的な影響を及ぼすことを報告した。また、血尿の腎機能低下への影響は、男性に比して女性で小さかったことを明らかにした。これらの結果により、健康診断における尿潜血陽性には注意が必要であること、特に尿蛋白合併例ではより慎重なフォローが望ましいことが示唆された。

公聴会での発表は、研究の要点が要領よくまとめられており、非常にわかりやすかった。質疑応答においても、1) **standardized mean difference** とは何か、2) 血尿を3群に分けずに2群にした理由は、3) 女性において血尿が閉経後にも頻度が低下しなかった理由は、4) 今回の結果が今後の検診に及ぼす影響は、5) 血尿と生活習慣との関係は、6) 今回の結果を踏まえ血尿の臨床的意義をどう考えるか、7) 血尿の性差に影響する因子は、8) 血尿が腎機能低下に及ぼす機序は、9) 血尿への介入をどうすべきか、10) 尿潜血ではなく顕微鏡的血尿を検討した場合、今回と結果は異なるか、などが質問され、全ての質問に的確に回答した。

蛋白尿と尿潜血の腎機能低下に対する影響について検討した本研究は、今後の臨床において非常に有意義と思われ、公聴会での発表、質疑、参考論文を含めて、審査委員すべてが適と判断し、学位授与に十分値すると評価する。

参 考 論 文

1. Trace proteinuria detected via dipstick test is associated with kidney function decline and new-onset overt proteinuria: the Japan Specific Health Checkups (J-SHC) Study.

Kosugi T, Eriguchi M, Yoshida H, Tamaki H, Uemura T, Tasaki H, Furuyama R, Fukata F, Nishimoto M, Matsui M, Samejima KI, Iseki K, Fujimoto S, Konta T, Moriyama T, Yamagata K, Narita I, Kasahara M, Shibagaki Y, Kondo M, Asahi K, Watanabe T, Tsuruya K. Clin Exp Nephrol. 2023 Oct;27(10):801-808.

2. 論文タイトルを記載してください。

著者名、掲載雑誌名等を記載してください。記載にあたっては、留意事項を参照してください。

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに腎臓病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年3月5日

学位審査委員長

循環器病態制御医学

教授 彦惣 俊吾

学位審査委員

呼吸器病態制御医学

教授 室 繁郎

学位審査委員(指導教員)

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦